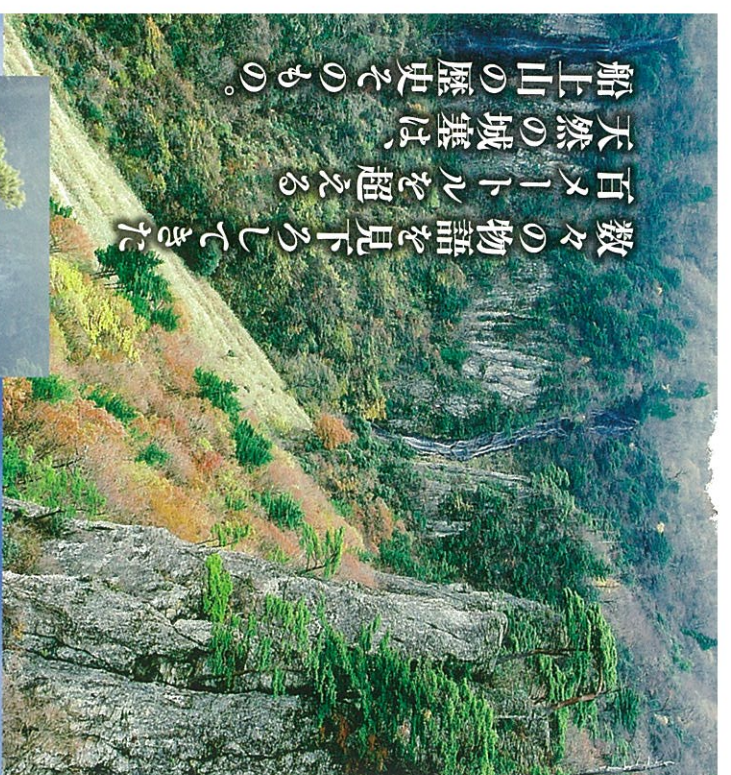


数々の物語を見下ろしてきた
百メートルを超える
天然の城塞は、
船上山の歴史そのもの。



千丈のそき
山頂の行宮御櫓から約100mほど
下った場所で、屏風岩の先端から
眺める切り立った崖や千丈滝、連
なる屋根が広がる大パノラマは最
高である。

船上山の歴史と景勝の探訪。

大山隠岐国立公園内にある船上山(615m)は、その南方に連なる勝田ヶ山(1,149m)、甲ヶ山(1,338m)、矢筈ヶ山(1,358m)などと連なり、古期大山(約100万年前)の外輪山といわれている。

船上山の頂上は広く平坦となっているが、東西及び北方は柱状節理(両輝石安山岩)による高さ100m以上の断崖(屏風岩)で天然の城塞をなしている。

この屏風岩の南端には、頂上の台地から勢いよく流れ落ちる雄滝と雌滝があり、この2つの滝を千丈滝という。

また、船上山は、平安時代の初期頃(約1200年前)から山岳仏教が栄え、大山、美徳(三徳)山とともに伯耆三嶺と呼ばれた、修験道の霊場であった。

のちに、元弘の乱により隠岐へ配流となった後醍醐天皇が、1333年に隠岐を脱出して名和長年に奉ぜられ、船上山合戦に勝利し「建武の新政」の礎となった歴史の山でもある。

このように、長い歴史と自然に恵まれた船上山は、春は桜・若葉・山菜採り、夏はキャンプ・登山、秋は紅葉と四季折々に訪れる人を楽しませている。

うらわ 琴浦町
琴浦町は、平成16年9月1日に旧東伯町と旧赤碕町の2町が合併して誕生。新町名は両町にまたがる海岸線の呼称である琴ノ浦から命名された。南は大山山麓、北は日本海、山から海にわたる美しい自然と貴重な歴史や文化遺産を堪能できる。

